



迷ったときの 医者選び

首都圏

ジャーナリスト伊波達也&医療評価ガイド取材班

南々社



藤井隆広院長

医療法人隆風会 藤井隆広クリニック

藤井 隆広 院長

東京都中央区銀座4-13-11 銀座M&Sビル7F
TEL：03-3544-6266
http://www.tf-clinic

＜スタッフ＞看護師5名・事務員6名

インフォームド
コンセント ★★★★★

セカンド
オピニオン ★★★★★

カルテ開示 ★★★★★

症例数 1764例
(04年9月1日～05年
9月31日までの外来)

実績・成績

上部内視鏡検査数988名、下部内視鏡検査数1359名（04年9月1日～05年9月31日）。
がん発見数は、胃がん（早期16例、進行6例）、大腸がん（早期17例、進行19例）（03年7月～05年9月）

特色 内視鏡検査と拡大内視鏡を用いた的確な診断と治療

藤井院長は、2003年7月に同院を開業する以前は、国立がんセンター中央病院の内視鏡部消化器科の医長として診断・治療に従事していた。同院長は、苦痛のない大腸内視鏡検査を行うこと（04年2月17日読売新聞夕刊に掲載）はもちろんのこと、発見しにくい欧米人には少ないと思われてきた陥凹型の大腸がんの発生率に人種の差がないことを証明するなど、その診断能力の高さにも定評がある。現在では同院において、拡大内視鏡でポリープの種類や深達度を的確に判定し、その場で早期がんの内視鏡治療を行い、進行がんは国立がんセンター中央病院に紹介して、患者の予後を大きく改善させている。

治療

同院長は大腸の病変を100倍まで拡大して観察できる拡大内視鏡を用いて、ポリープの種類（治療不要な非腫瘍、良性腫瘍、がん腫）を瞬時に診断でき、がん腫の場合には内視鏡治療可能な早期がんか、外科的手術を要する早期がんであることを約9割判定し、1回の内視鏡検査で診断から治療までを完遂しえる。

同院長のポリシーは、近年急増している大腸がんに対し、がんを少しでも初期の段階で発見し、大腸がんによる死亡率を抑制するということ。とくに表面型や陥凹型の発見困難な大腸がんは10mm以下でも早い段階で粘膜下層に浸潤することが多いので豊富な経験を活かし早期発見・治療を行っている。

また、個人クリニックでありながら、国立がんセンターなど多施設とともに、JPS（Japan Polyp Study）という日本における腺腫性大腸ポリープに関する臨床試験に中心となって参加している。この試験は、腸内がクリーンコロン（すべてのポリープが完全に切除された状態）になった後の経過観察のための安全で効率のよい大腸内視鏡検査間隔を明らかにする目的を掲げ、そのことによりいかにがんを未然に防ぐかをも模索しているものである。

さらに同院は、胃の内視鏡検査も行っており、極細の内視鏡（5mm）を用い、鎮痛剤との併用で、楽に検査が受けられるよう配慮している。

専門医からのアドバイス

大腸がんは症状が出る前の早期の段階で発見できれば外来で簡単に治療することができます。また、早期がんの50%が、進行がんでも20%が便潜血テストで陰性になることがありますので安心はできません。大腸内視鏡検査は苦痛のない検査です。40歳を超えたら必ず1回は大腸内視鏡検査を受けましょう。

外来診療日 休診日／水・日・祝祭日（土曜日は検査のみ）